

新教育課程の全面実施 1人1台学習端末の導入 ハイブリッドな全中理へ

全国中学校理科教育研究会
会長 山口 晃弘

コロナ禍における生徒の学び

令和2年度の一斉休校時には、復習プリント、動画配信等、生徒の学びが遅れないような様々な工夫や取り組みがなされました。資料や動画だけで実験させないでよいのか、果たしてそれで理科の学力が身に付くのか、と苦渋の選択があったと思います。

授業のねらいに合わせた資料提示や実験を行い、結論をまとめる…課題解決のプロセスは経ていても、そこに生徒が主体的に関わらない授業は避けなければなりません。

生徒の学びはどうあるべきか、理科で大事にすることは何か、コロナ禍だからこそ、もう一度理科教育を見つめ直すことができます。

中教審答申や学習指導要領に立ち戻る

コロナ禍でなかなか通常通りのことができない今だからこそ、理科の授業の基本に立ち返ることが求められています。

中教審答申に「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる」とあります。確かにコロナの収束は見通せず、文字通り予測困難になっていますが、資質・能力を育成するという、今回の改訂をしっかりと受け止めて授業を進めていく必要があります。

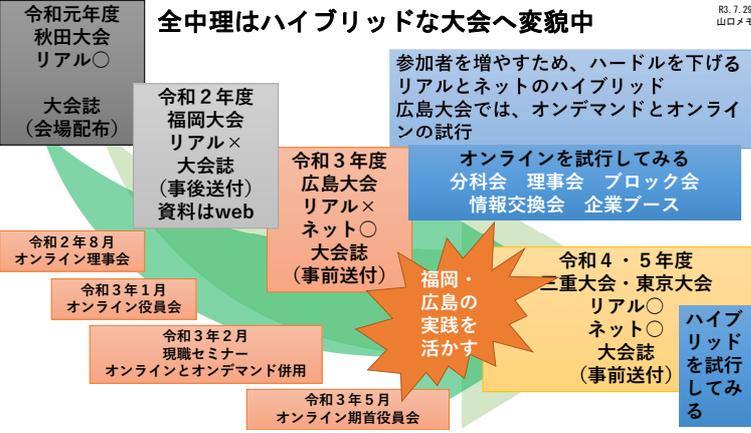
目の前の生徒がどう学んでいるのか、どんな力が付いているのかを常に評価をして指導に生かす…従前から大切だと言われている「指導と評価の一体化」はまさにこのコロナ禍の時代にふさわしい言葉かもしれません。

1人1台 - ICTの積極的な活用

OECD諸国の平均に比べると我が国は生徒(高校生対象のPISA調査)は、平日の学校外のインターネット利用が少なく、国語、数学、理科の授業での利用は最下位、コンピューターを使って宿題、学校の勉強のためのインターネット使用も低いことが明らかになっています。その一方で、ネット上のチャットやゲームは日本の方が高いです。

1人1台の学習端末は「調べ学習」だけでなく「学びを振り返る」「写真や動画で自然の事象をとらえ直す」「対話によって新たな概念をつくる」「学校の学習を補完する家庭の学習というだけでなく、学校と家庭の学びがシームレスにつながる」「学校の外と生徒をつなぐ」など、様々な活用ができます。ICTを意識した実践をしていく必要があります。

全中理はハイブリッドな大会へ変遷中



全中理開発教材コンテスト

基本的な考え方

- コンテストの趣旨
 - 中学校の理科の授業において、創意と工夫により著しい教育効果をおよぼせることのできる教材を開発した教員を表彰する。
 - 特に、秀逸な事例にはグランプリとして特別賞を贈呈する。
- 応募方法及び応募点数
 - 開発教材の応募方法
 - 所定の様式の「教材の概要」及び様式がない「添付資料」を提出する。
 - 「教材の概要」はA4判1枚(表のみ)。「添付資料」はPDF形式でA4判で枚数制限なし。様式はなく、教材の写真や解説等を掲載することができる。なお、教材の実物や動画等での提出は相談可とする。
 - 各都道府県で2点以内
- 応募受付の方法及び期間
 - 申し込みは全中理HPPからDLする「所定の様式」の提出で受け付ける。
 - 締切 令和3年10月1日(水)必着。担当者までメールにて提出する。
 - 「添付資料」の提出について 締切 令和3年12月1日(水)必着。担当者までメールにて提出する。
- 賞
 - グランプリ 全中理会長・理振協会賞 其他の賞及び副賞を検討中

具体的なスケジュール

- 令和3年12月15日から1月8日まで審査。
- web-siteにある非公開の書庫を開覧する形式。
- 審査員は全中理役員及び各都道府県の理事。
- 最終審査は令和4年__月__日(日) 全中理役員会(週休日に設定予定)。
- 全中理ホームページに開発教材の応募一覧として全タイトルを掲載。
- 令和4年度全中理三重大会総会で表彰。
- 受賞作品は令和4年度の全中理指導資料集及び全中理ホームページに掲載

今後の流れ

- 令和3年5月 役員会で提案
- 令和3年7月 広島大会で承認
- 令和3年8月 第1回の募集開始
- 令和4年5月 役員会で決定
- 令和4年5月 三重大会で表彰
- 令和5年8月 第2回の募集開始
- 令和5年5月 役員会で決定
- 令和5年5月 東京大会で表彰
- 令和5年8月 第3回の募集開始

近年全国大会を開催した都道府県、また今後全国大会を予定している都道府県は、送んで出願いただきますようお願いいたします。